



上海研修

この海外研修は、特別講座「スーパーグローバル」「提言Ⅰ」の一環として「国境を越えた課題」や「世界共通の課題」を上海の生と共に学習し、それらの解決に向けて互いの意見やアイデアを議論し未来に向けた提言を行うことを目的に、5年生（高校2年生）を対象に今年度から実施している。参加者は10名、教員3名の引率であった。以下、その取り組みの概要と成果と課題を挙げる。

①事前準備・事前指導

前年度より	上海研修参加希望者への説明会・上海研修参加希望者課題レポート作成・選考
4月16日（月）	17:00 研修担当者でスカイプのリハーサル
4月17日（火）	17:00 上海大同中学校の担当者とスカイプの打ち合わせ
4月24日（火）	17:00-18:00 上海大同中学校との第1回スカイプ交流 訪問地（上海住友商事・上海総領事館）の学習会
5月2日（水）	16:30-17:00 2日目の研修地検討会・健康調査等の書類提出日
5月10日（木）	17:00-18:00 食文化の議論①
5月11日（金）	8:10- 8:40 食文化の議論②
5月16日（水）	16:00-16:50 高校生活の議論①
5月17日（木）	8:10- 8:40 伝統文化の議論①
5月18日（金）	13:15-13:35 伝統文化の議論②
5月28日（月）	16:00-17:50 食文化・高校生活グループワーク
5月29日（火）	16:50-17:50 食文化・伝統文化・高校生活グループワーク 18:00-19:00 保護者説明会

※この間は、グループごとにプレゼンの準備・アンケート調査の作成

6月8日（金）	16:50-17:50	グループごとに発表
6月14日（木）	16:30-17:30	上海大同中学校との第2回スカイプ交流
6月22日（金）	17:00-17:45	プレゼンテーション作成完了・準備に関する指導
6月25日（月）	16:00-16:45	全員によるプレゼンテーションのリハーサル・渡航指導
6月28日（木）	16:00-16:45	健康状態の最終確認・旅行行程の最終指導

②旅行行程

第1日 6月29日（金）

時間	場所	行動	備考
7:15	広島空港2階国際線ロビー	集合	結団式・出国手続き
9:15	広島空港発	移動	中国東方航空 MU294 便にて広島空港出発

10:30	上海空港着	到着	入国手続き
11:30	同空港発	移動	専用バスで食事会場へ移動
13:00	レストラン着	食事	
13:45	上海住友商事着	研修	上海住友商事（総合商社）の概要説明と質疑応答および施設訪問
15:10	上海住友商事発	移動	専用バスで移動
16:10	上海総領事館着	研修	上海総領事館に関する概要説明と質疑応答
17:40	上海総領事館発	移動	専用バスで移動
18:10	市内レストラン	食事	
19:00	外灘着	研修	現地ガイドのもと視察
	外灘発	移動	専用バスで移動
20:00	ホテル→ホテルの各部屋	到着	健康観察・ホテルの部屋の点検
20:30	ホテルのロビー	集合	ミーティング
22:30	ホテルの各部屋	就寝	点呼・消灯・就寝

第2日 6月30日（土）

時間	場所	行動	備考
7:30	ホテル内レストラン	食事	体温確認・ミーティング・食事・支度
8:30	ホテルロビー	集合	専用バスで移動
8:45	上海博物館着	見学	9:30まで待機→館内を見学
11:15	上海博物館発	移動	専用バスで移動
12:20	豫園着	見学	現地ガイドの案内
13:20	豫園内のレストラン	食事	
14:30	豫園発	移動	専用バスで移動
15:00	田子坊着	見学	現地ガイドの案内および一部自由行動
15:45	田子坊発	移動	専用バスで移動
16:00	上海自然博物館着	見学	館内の見学
17:50	上海自然博物館発	移動	専用バスで移動
18:30	市内レストラン	食事	食後に地元スーパーへの立ち寄りののち移動
20:50	ホテル着	到着	ミーティング
22:30	ホテルの各部屋	就寝	点呼・消灯・就寝

第3日 7月1日(日)

時間	場所	行動	備考
7:30	ホテル内レストラン	食事	体温確認・ミーティング・食事・支度
8:45	ホテルロビー	集合	専用バスで移動
9:10	上海大同中学着	交流	上海大同中学の生徒と交流, プレゼン発表
11:30	上海大同中学発	移動	専用バスで移動
12:00	日本国総領事館官邸着	食事	歓迎セレモニー, 上海大同中学の生徒と上海日本人学校の生徒らと食事会
13:30	日本国総領事館官邸発	移動	専用バスで移動
14:20	上海大同中学着	交流	上海大同中学校の校内散策 テーマごとに英語による議論および翌日の合同発表に向けての話し合い
17:00	上海大同中学発	移動	専用バスで移動
19:00	レストラン着	食事	
19:30	ホテル着		ミーティング
22:30		就寝	点呼・消灯・就寝

第4日 7月2日(月)

時間	場所	行動	備考
7:00	ホテル内レストラン	食事	健康観察・ミーティング・全員で食事・支度
8:20	ホテルロビー	集合	専用バスで移動
9:00	上海大同中学着	交流	テーマごとにプレゼンの準備および練習, テーマごとに英語で合同発表, 集合写真
12:10	上海大同中学発	移動	専用バスで移動
12:40	レストラン着	食事	
14:00	レストラン発	移動	専用バスで移動
15:30	上海空港着	移動	出国手続き
17:25	同空港発	移動	中国東方航空 MU293 便
20:15	広島空港着	集合	入国審査
20:45	同空港内		解団式・解散

③研修中および事後の研究発表

研修中は、生徒の健康状態を考慮して、遅くまで集合させることなく、移動中のバス内を有効に利用して随時ミーティングを行いながら研修を進めた。また、今年度から起床時に体温を測り、朝食会場にて体温を報告するように指導を行い、常に各自が健康管理を行うように促すことができたため、体調不要者も出ることなく、研修を進めることができた。上海総領事館や上海住友商事の訪問に向けて、事前に総領事や外交官に関する資料や総合商社に関する資料を準備して、学習しておくべきことを提示し、

事前に質問内容を集約して先方に送っていたので、先方の担当者の方も事前に答えを準備して下さったおかげで、新しい質問内容に触れる時間を作ることができた。また、質問内容や挨拶内容を事前にしおりとして参加者全員に配布していたので、情報を共有することもできていた。上海大同中学とのテーマごとの議論の場では、2度のスカイプ交流でお互いの研究内容を発表していたので、スムーズに話し合いを行うことができた。しかし、テーマによっては、着眼点があまりにも乖離していることもあり、議論が停滞してしまう場面もあったが、その場合は、上海大同中学との先生と協力してグループにアドバイスを与えるなどして議論が進むよう促した。帰国後、さらに研究テーマを模索し、研究を深めていき、提言Ⅰの代表として12月15日(土)SGH全国高校生フォーラムで英語によるポスター発表を行った。

④成果と課題

今回の上海研修も前回と同様に当校卒業生のご協力で、公的機関である在上海日本国総領事館を訪問することができ、普段では聞くことができない貴重なお話を聞かせていただく機会を得た。また、当校卒業生が日本に戻ったにも関わらず、引き続き総合商社の上海住友商事のオフィスを訪問することもでき、世界を視野に自分の能力を発揮して社会づくりに参画している総合商社の仕事の一端を知る機会となった。総領事のお話から、マスコミなどからの一面的な情報で、主観的な中国像をつくるのではなく客観的、多層的な見地を養い、等身大の中国を見ることの重要性を学ぶことができた。2日間実施した上海大同中学との活動に関しては、担当者間でEメールを利用して連絡や調整を密に取り合ったり、スカイプ交流を複数回設定したりして、事前にテーマに関する内容や議論したい内容、知りたい内容を共有した。その結果、現地ではスムーズに研究発表およびグループごとに合意形成を行いながら議論を深め、その成果として、日中の生徒が協力して、テーマに対する新しいプレゼンテーションを作り、発表することができた。研修に参加した生徒は、帰国後に3つの視点でレポートを書いた。その視点とは、①研修前の目的、②研修を通しての変容、③研修を通してのまとめである。その中には以下のような記述が見られた。

[生徒Aの記述]

①研修前の目的：私は、幼い頃から中国の文化や歴史などに興味があり、かねてから一度現地に訪問してみたいという思いがありました。上海研修に参加することが決まり、自分にとって初の海外渡航であったため、自分の知らない世界や価値観に触れて視野を広げること、そして、上海における教育の現状や同年代の学生の考え方などを知り、今後の研究につなげていくことを自らに課し、今回の研修を迎えました。教育の分野を選択したのは、例えば第二、第三言語の教育や学生スポーツ等の課外活動について、日頃から考えることが多く、加えて自身の将来の進路として教育に関わる分野で働いていきたいとの思いがあったからです。

②研修を通しての変容：まずこの研修を通して、一番強く感じたことは、固定された価値体系の中に留まり続けるのではなく、積極的に異文化や異なる価値観を持つ社会に足を踏み入れ、自分の無知を自覚するとともに、貪欲に多角的な視点から新たなものごとを知ることが大切だということです。日本という社会、福山附属という社会、日々私たちが過ごしている社会では、当たり前であるようなことも一歩外に出てみればそうではないことも多くあります。隣国ではありますが、生活様式や文化、教育、経済など全

く異なることも多くとても新鮮で自分がまさに「井の中の蛙」であることを思い知らされました。また、自分の無知という点では、自分のコミュニケーション能力の低さを痛感させられました。大同中学校の学生との交流で、高校生の生活というテーマで上海の高校生と英語で話をしましたが、自分の伝えたいことが思うように伝えられないもどかしさ、上手く喋ることができずに沈黙してしまった時の申し訳ない思いを感じました。自分の数倍もスラスラと英語を話す同年代の上海の学生の姿を目の当たりにし、強い刺激となりました。自分のつたない英語にも耳を傾けてくれた新たな友人たちに感謝し、今後は、国際交流の場でも使える英語を身に付けるように、日々の学習で意識してコミュニケーション力を磨いていきたいです。

③研修を通してのまとめ：具体的に、大同中学の学生との交流の中では「日本と中国間での高校生の将来に対する意識の差」というテーマで話を進めました。将来海外に留学してみたいか、職業を選ぶ上で何を重視するかなど、両校の生徒から様々な意見が飛び出し、その中でいくつかの共通点や相違点を見出すことができました。自身が発前に掲げた教育の分野と関連性の高いトピックであり、教育のシステムの違い、上海で生活する学生の意見等を踏まえ、今後の研究を進めたいです。

[生徒Bの記述]

①研修前の目的：今回の研修は、僕にとって初めての中国訪問であり、僕は中国についてあまり詳しく知らなかった。研修メンバーとの話や研修計画を立てる段階で初めて知ったことも多いくらいである。また、中国に関して、マイナスなイメージが多い。だから、まず、実際に中国を訪問し、中国の文化と触れ合うことで、中国に関する事実を知ることが目的とした。そして、今回異国でのディスカッションの場が設けられる。違う文化、生活環境で育った人、つまり違う視点を持った人との意見の交流ができるということだ。大変貴重な機会であるため、積極的に自分の意見を表現し、互いの考え方を理解したい。

②研修を通しての変容：研修1日目、我が校の先輩である片山和之さんの勤める総領事館を訪れた。片山さんは僕たち後輩にとっても優しく接してくださった。日本と中国の関係を真剣に考え、よりよいものへと導こうという先輩の姿勢に憧れや尊敬といった感情を抱き、僕自身も頑張らねばと向上心が湧いた。1、2日目の観光や3、4日目の現地の学生との交流を通して、中国の良さを知ることができた。博物館では中国の歴史について、学生との交流では日常生活についてなど、いろいろな場所でいろいろなことを知ることができた。今まで持っていた中国に関するマイナスなイメージは払拭され、むしろ中国にもっと残りたい、そんな気持ちにもなった。最も僕に影響を与えたのは大同中学校の学生との交流である。初めて会った時はぎこちなく、隣に座っている人とも会話ができなかった。しかし、文化交流や食事会などを通してとても仲良くなり、ディスカッションではお互いの国の知らないことを共有しながら、有意義な話し合いができた。話題が難しく、英語で話すということもあって、なかなか思うようにはいかないこともあったが、英会話力の高い大同の学生のリードに頼りつつ、話を進めることができた。さまざまな意見を聞くことができたので、これからの研究に活かしていきたい。

③研修を終えてのまとめ：実際に中国に行き、現地の文化に触れ、学生と交流するという特別な経験をさせてもらった。大同の学生との交流で得られた彼女らの意見を参考に、これから研究を発展させていきたい。また、せっかく仲良くなった友達なので、彼女らとの交流をこれからも長く続けたい。

生徒の記述からは、大同中学校の学生とのディスカッションは、お互いの国の知らないことを共有しながら、有意義な話し合いができた時間であったと感じていることが分かった。今年度は、渡航前に二度のスカイプによる意見交換会を持つ機会を設定できたので、上海で出会った時からスムーズに会話を始めることができていたように思う。また、帰国後も大同中学校の学生や、在上海日本国総領事のご厚意で開かれた食事会に参加した上海日本人学校の生徒と、インターネットを利用した意見交換を続けているという実態もあり、今後の研究を進めていく上でも意見交換ができることを期待ができる。一方で、課題研究の内容を精選することが難しく、なかなか研究が深まらないことが課題であると言える。上海へ渡航するまでの三ヵ月間は、大同中学校の学生と議論するための三つのトピック「高校生活」「伝統文化」「食文化」に関してプレゼンテーションの準備を行っていた。帰国後は、大同中学校の学生と議論を通して分かったこと、分からなかったことを整理し、課題研究として深めていくために研究テーマの絞り込みや、研究内容の見直しをおこなった。結果として、「高校生活」と「食文化」の2つに絞り、それぞれ“Awareness of Modern Young People”と“The Solution for Food Waste”を研究テーマとし、アンケート調査などを実施し研究を深めた。また、本校で実施している IDEC 連携プログラムに参加し、アジア諸国からの留学生から様々な立場で意見をもらい、生徒同士で議論を重ねながら、何度も研究内容をブラッシュアップし、当初「高校生活」で若者の意識について研究を行っていたグループは、さらに研究テーマを絞って“Japanese student enrollment at foreign universities Is it sufficient?-A comparative view”とし、12月15日(土)のSGH 全国フォーラムに研究成果に関するポスター発表を行った。今後は、3月11日(月)に両チームとも当校のSGH 成果発表会で研究成果を発表、3月23日にSGH 甲子園でポスター発表を行う予定である。今回の大きな成果は、研究を約一年に渡って継続して行ったこと、事後学習を当校の IDEC とからめたことである。そして、研究の成果を発表する場の充実を図ることによって、生徒の研究内容は深まるとともに、様々な立場の人達と合意形成を目的とした議論を粘り強く行うことによって、多角的な視野で物事を捉え、考えることができた取り組みになったと考える。

